

広島大学技術センター発足にあたって



技術統括 竹岡 清二

平成16年度,全国の国立大学は国立大学法人として発足した。従来,広島大学には平成5年5月11日に制定された「広島大学教室系技術職員の組織等に関する取扱要項」により,各学部等に技術部組織として発足した。しかし,組織は出来たものの人事,予算等の権限はなく命令系統もはっきりしない組織であった。

法人化に向かって事務組織等改革は早くから議論がなされてきたが教室系技術職員についての組織改革の議論は平成15年4月から遅れて「国立大学法人設立準備会議人事制度WG教室系技術職員検討プロジェクト」として発足した。

議論の過程では,主に1)技術職員の役割,2)技術専門集団の構築,3)一元化による人材確保等の議論を行った。特に,2)については技術専門集団の部門(案)として検討したが,十分な議論をする時間も無く結論が出なかった。このため,従来の各学部等の技術部をまとめて大学で一本化し,学術部所属の技術センター組織とし,法人化と共に平成16年4月に発足させた。

発足後からは毎月1回技術センター企画調整委員会を開催し,将来を見据えた活発な議論を行って来た。組織化されたものの細かいところの問題点も多く,また,積み残された技術専門組織の検討を再度行う必要がある。

しかしながら,技術職員による情報の共有化,学外研修の充実,安全衛生講習会,技術センター研修会開催,各種委員会の設置等,少しずつであるが着実に前進を見るに至った。

技術職員として組織化による活躍はこれからであり,今まで以上に技術研鑽をして研究・教育・社会貢献支援のための大きな専門的技術集団となり,一歩ずつであるが,学内の研究者はもとより,学外の多くの方にも認められる広島大学技術センターに発展して行くことが大事である。

平成17年3月